

令和3年度南丹市歳入歳出決算の概要

令和3年度一般会計歳入歳出決算

歳入 266億6,745万5,034円
歳出 256億2,952万9,663円

令和4年南丹市議会9月定例会で認定されました、『令和3年度南丹市一般会計歳入歳出決算』の概要についてお知らせします。

令和3年度一般会計決算は、市に入ったお金(歳入)の総額が266億6,745万5,034円、使ったお金(歳出)の総額が256億2,952万9,663円となりました。歳入歳出差引額は、10億3,792万5,371円となり、このうち翌年度へ繰り越すべき財源9,524万3,000円を差し引いた実質収支額は、9億4,268万2,371円の黒字決算となりました。

ただし、その歳入には、前年度からの繰越金10億7,933万42円が含まれています。

歳入で一番多いのは、標準的な行政サービスを行うために交付される「地方交付税」が、100億6,125万5,000円、歳入全体の37.7%を占めています。続いて、市民税や固定資産税などの「市税」で42億6,854万2,295円(16.0%)、特定の事業実施のために国から交付される「国庫支出金」で41億3,628万7,836円(15.5%)の順となっています。

歳出は、子育て環境の充実に向けた取組や、新型コロナウイルス感染症対策として生活と暮らしの支援を行った「民生費」が74億4,087万6,228円と最も多く、歳出全体の29.0%を占めています。続いて「総務費」が42億1,733万9,083円(16.5%)、「土木費」33億4,118万6,982円(13.0%)、「公債費」32億5,392万4,612円(12.7%)となっています。

令和3年度においては、子育て環境の充実に向けた取組のほか、安全・安心な学校教育環境の整備にも取り組み、学習活動の充実を進めてまいりました。また、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に全力で取り組むと共に、市内経済の活性化に向けて、市独自の事業者支援事業を創設するなど、意欲的に取り組んだ結果を反映したものとなっています。

一方で、普通交付税の合併算定替による加算措置が令和2年度で終了し、子育てから高齢者まで幅広く生活を支える社会保障関係費や長期借入市債に係る償還金も多く、大変厳しい財政状況となっています。

このように厳しい財政状況の中ではありますが、様々な行政課題や大型事業への対応など、市民の皆さまの要請に応えるべく、「10年後の未来を見据えた、力強く元気で夢のあるまち」の実現に向け、施策・事業推進に総力を挙げてまちづくりを進めてまいりました。